

地域リハビリテーション支援センターだより

(神奈川県リハビリテーション支援センター)

2021年 6月発行 NO-84

地域リハ支援センター

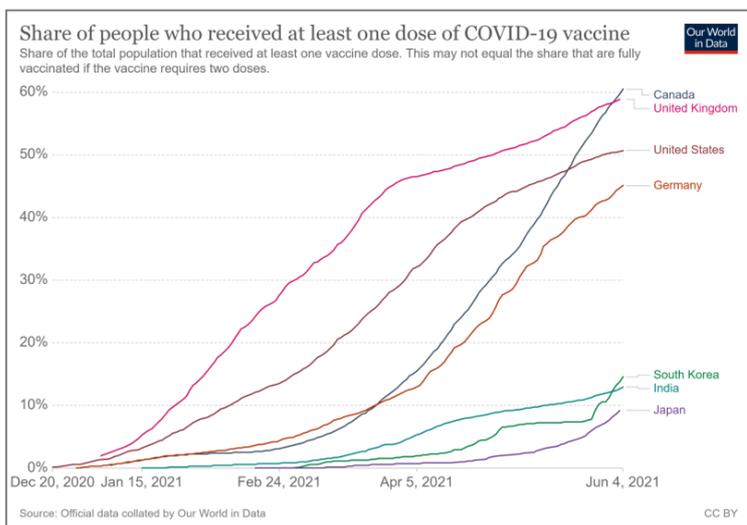
新型コロナウイルスとその副反応



国内では、昨年12月9日に施行された改正予防接種法によって、本年2月17日から医療従事者に、新型コロナウイルスワクチン（ワクチン）の接種が開始されました。4月12日からは、ご存知の通り65歳以上の高齢者に接種が進められています。国内では3種のワクチンが承認され、接種を少なくとも1回以上終了した人々の割合は、人口の9.2%（6月3日時点）まで増加しました¹⁾。また、既知の効果に加えて、ワクチンの感染予防効果が海外から報告²⁾されたことは大きなトピックスです。加えて、ファイザー製ワクチンは添付文書改訂によって12歳以上が接種可能年齢となりました³⁾。今後、これらは接種を検討する際の一助となりうると考えられます。

7ファイザーとモデルナのワクチンは、メッセンジャーRNA（mRNA）を用いた製法でも話題です。mRNAワクチンとは、抗原の一部から遺伝情報を取り出し、それをもとに製造されたmRNAを接種して抗体を獲得させる⁴⁾という画期的な技術です。新技術であるが故に、ネガティブな声メディアでは多く囁かれました。話題となった副反応の一つであるアナフィラキシーは、その最たるものの一つでしょう。アナフィラキシーとは、蕁麻疹等の皮膚症状、血圧低下等の循環器症状、気道閉塞等の呼吸器症状、嘔吐等の消化器症状等が複数の臓器で起こると、おおそ報告基準を満たします。開始当初、国内ではアナフィラキシーが多数報告されていましたが、その殆どが国内の判断基準によるものでした。治験や、海外で用いられているブライトン報告基準⁵⁾では、5月16日時点の発症頻度は100万回接種当たり24件とされています⁶⁾。抗菌薬のペニシリンによるアナフィラキシーが、100万人当たり200から400人⁷⁾と報告されていますので、それほど多い頻度ではないように感じます。

医療従事者への接種の際、当院では実生活に近い条件下の副反応調査を実施しました。すると、国内治験で最も多く報告された注射部位疼痛は、治験時接種1回目：86.6%、2回目：79.3%に対し、54.8%、57.1%といずれも低い割合でした。接種1回目は女性が痛みを感じやすく、2回目は性差がありませんでした。また、日常生活に大きく影響する37.5℃以上の発熱は、治験時接種1回目：14.3%、2回目：32.8%に対し、2.5%、23.0%とやはり低い割合でした。こちらは、1回目に性差は生じず、2回目に女性が有意に発熱しやすい結果でした。実生活では、その副反応を許容範囲内と感じる方が治験時より高い割合で存在する事を示唆する結果となった一方で、発熱の割合は接種2回目に大幅な増加が見られ、特に女性はその他の副反应对策も含めた注意が必要と改めて感じました。



今後、接種対象者が拡大されると、更に新たな知見が報告されると思われます。それらの情報を正しく理解し、自ら接種の根拠を持った上で、多くの方々が納得、安心して接種を受けられる事を期待します。

神奈川県リハビリテーション病院
診療技術部長 岡村秀行

【参考文献】

- 1) Our World in data, June 05, 2021. (<https://ourworldindata.org/coronavirus>)
- 2) The LANCET, VOLUME 397, ISSUE 10287, P1819-1829, MAY 15, 2021
- 3) コミナティ筋注添付文書, 2021年5月改訂(第4版)
- 4) IASR Vol. 42 p36-37: 2021年2月号
- 5) 薬剤疫学 Jpn J Pharmacoepidemiol, 202 Dec 2015 : 57
- 6) 第60回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会, 令和3年度第8回薬事・食品衛生審議会薬事分科会医薬品等安全対策部会安全対策調査会資料1-4(令和3年5月26日)
- 7) Penicillin Allergy, August 14, 2020. (https://www.ncbi.nlm.nih.gov/books/NBK459320/#_NBK459320_pubdet_)

2021年度 研修会が始まりました!

昨年度の研修会は、新型コロナウイルス感染症の影響により、予定していた研修会のほとんどが中止・オンライン研修に変更…と、従来の研修会の開催が困難となってしまいました。

長引くコロナ禍で、今年度の研修会もオンラインでのスタートとなりました。ただ、オンライン研修は、自宅や職場でみられる（感染のリスクが少ない）・遠方の方も参加できる…などメリットもたくさんあり、受講生の方からも「**このご時世、オンラインで研修に参加できるのはありがたい!**」とうれしいお言葉もいただいています。

昨年度は、運営側も経験のないオンラインでの開催…。どのような方法がいいのか手探り状態で、不手際もたくさんあり、受講生のみなさまにはご迷惑をおかけしたと思います。

参加して下さったみなさまからの「**実技動画などをふまえて欲しい**」「**質疑応答はライブで行って欲しい**」というご意見をもとに、運営方法の検討・試行錯誤をくり返し、今年度初の研修会はライブで開催することができました! 内容についての質問もたくさんいただき、活気ある研修会となりました。

コロナ禍の終わりがみえない状況にありますが、今年度も『学ぶ場』が活気にあふれるものになるように、スタッフ一同がんばっていきたいと思います。**今年度もよろしくお願いたします!**

(清水 里美)

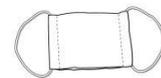


2021.6.8 (火)

知的障害者の身体機能低下への対応

- 運動機能低下への対応
地域リハ支援センター PT 小泉 千秋
- 食事環境調整
地域リハ支援センター OT 清水 里美

2021年度 7~8月 リハビリテーション専門研修



研修名	開催日時	定員	会場(研修形式)
高次脳機能障害セミナー：小児編	7月10日(土)	30名	オンライン研修
脊髄損傷者に対する基礎知識と支援の実際	7月15日(木)	30名	オンライン研修
排泄ケアの知識と実践	7月21日(水)	30名	オンライン研修
高次脳機能障害セミナー：理解編	8月28日(土)	100名	県総合医療会館

状況によって、開催日時・時間・研修形式が変更になる可能性があります。

* 研修日の2ヶ月前までにホームページにてお知らせいたしますのでご覧ください。

介助研修報告

5月26日に知的障害者施設で介助研修を行いました！

今回は施設の支援員の方々を対象に、施設に赴き実技を交えた対面研修を行いました。人との接触がある研修内容であったため、適宜換気や消毒等の感染対策を徹底しながら実施しました。

研修は全2回行う予定で、初回は、介助についての基礎知識、腰痛とその対応、介助者の身体の使い方、対象者との関わり方、寝返り等の床上動作、床からの立ち座りを行いました。

講義では、実際に体験してもらいながら『身体の使い方やコツ』を学べるように、実技を多く取り入れた内容にしました。実技では、参加者同士が自分の身体を使って体験したことで、実践場面で『どう動けばいいのか』イメージができたと思います。

昨今、知的障害者施設では利用者の高齢化に伴う身体機能低下の問題が多くあり、支援員の方々にも介助に関わる身体的・技術的な課題が増えているのではないかと考えられます。その一方で、現場の支援員の方々は、介助技術を学ぶ機会が少ない現状も考えられます。

研修を通じて学んだことを、今後の日常業務に活かしていただければと思います。(小泉千秋)



安心安全な介助技術を身につけよう！



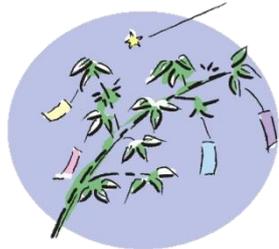
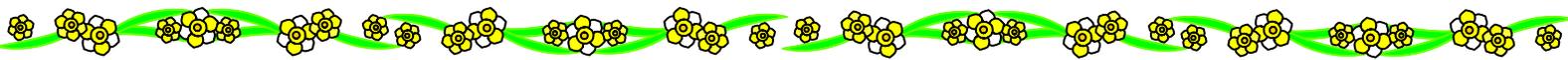
2021年4月～5月までの専門相談件数

	神経・筋疾患	脊髄障害	脳血管障害	骨関節疾患	後天性脳損傷(除くCVA)	脳性麻痺	知的障害	視覚障害	その他(切断・加齢等)	不明	合計
県央	5(2)		1(1)		3	1	1	1			12(3)
湘南東部	2(1)										2(1)
湘南西部	1		1								2
県西	1	1						1			3
横須賀・三浦	1							2			3
合計	10(3)	1	2(1)		3	1	1	4			22(4)



	障害者更生相談所	居宅介護支援事業所	市町村	地域包括支援事業所	本人・家族	障害者相談支援事業所	障害者施設	医療機関	訪問看護事業所	保健福祉事務所	高齢者施設	訪問介護事業所	教育機関	その他	合計
県央		5(3)	2		1	1	3								12(3)
湘南東部										2(1)					2(1)
湘南西部									1		1				2
県西					1	1		1							3
横須賀・三浦					2			1							3
合計		5(3)	2		4	2	3	2	1	2(1)	1				22(4)

()の数字は訪問件数



高次脳機能障害支援 地域での当事者家族会



神奈川県は厚木の七沢…風光明媚…といえば聞こえがいいですが、猿や鹿が出没するような場所にありますので、当センターまで相談においでいただくことがむずかしい方も多いため、当センターまで来られなくても、身近な地域で当事者や家族からのピアサポートを受けたり、専門相談が出来たりする環境づくりが望まれていました。

そこで、地域の相談支援事業所や家族会（ナナの会）等と協働を行ない、小田原市（クローバー：第1金曜日午後）、相模原市（かわせみ会：第1土曜日午前）、大和市（大和市障がい者自立支援センター：第2水曜日午後）、伊勢原市（ふくじゅ：第2金曜日午後）、藤沢市（チャレンジII：第3水曜日午後）、就労を考える会（ナナの会：年2回）を開催しています。

当事者・家族の皆様は、事故や病気で高次脳機能障害という外見上は分からない障害と向き合った生活を送っていますが、孤独感や孤立感を抱いたり、原因や対応方法が分からずに暗中模索の日々を過ごしたり、家族からの助言にイラついてしまったり…、といった悩みや課題を抱えた中で生活されています。そのようなときに同じような体験をしている当事者・家族に話を聞いていただき、経験談をお話いただくことで、安心感を得られ、これからやるべきことが整理され、もうひと月頑張ろう…という気持ちになることができるそうです。

2012年に現様式で、地域での当事者家族会を相模原市で始めてから今年で10年が経過しました。これからも、地域支援者の皆様、家族会と協働しつつ、高次脳機能障害の当事者と家族が安心して地域生活を送ることが出来るように取り組んでいきます。（瀧澤 学）

2021年度 かながわ地域リハビリテーション支援連絡会

今年度の支援連絡会について、オンラインにて幹事会が行われました。この連絡会は、神奈川県内の地域に関わる施設の情報交換を目的に年3回行われています。参加施設は、県内政令市の横浜・川崎の各リハセンター（今年度から川崎の南部リハセンターが開設）、相模原更生相談所となります。

昨年度はコロナの影響により、オンラインで1回だけの開催になりました。今年度は複数回の開催を目標に、まずは9月にオンラインにて『福祉機器に関わる情報交換』をテーマとして開催する運びとなりました。外出する機会が減ることで様々な情報が入りにくい状況であり、新しい機器の紹介や知られていない情報を共有していきたいと考えています。

（小泉 千秋）



編集後記

6月（June）は、春と夏の境目で、北海道を除く各地で梅雨の季節となります。Juneは、ローマ神話のユピテル（ジュピター）の妻ユマ（ジュノー）が由来で、結婚生活の守護神であることからJune bride（6月の花嫁）は幸せになるといわれているそうです。ユピテルは、ギリシャ神話のゼウスにあたります。検索エンジンでギリシャ神話を検索すると多くの解説がヒットします。

ステイホームの一眼にネットサーフィンしてみたいか？（Y・I）

〒243-0121
神奈川県厚木市七沢 516
神奈川県総合リハビリテーション事業団
地域リハビリテーション支援センター
☎ 046-249-2602
FAX 046-249-2601

